

# ポスター展示発表要旨

## ○帯状更新地における更新状況について

佐久地方事務所 高野 毅

帯状に伐採して植栽をする帯状更新が坂城町で40ha以上行われてきたが、植栽から約10年を経た林分もあることから、帯状更新地の調査をし今後更新施業に取り組むにあたっての留意事項等の検証を行なった。

## ○森林路網の経営上の位置づけを理解するための研修用教具の作成と使用例

佐久地方事務所 関 憲一郎

林業事業体等が設備投資をする観点から、路網施設に係るコストの削減について理解を深めるための「研修用教具」を作成したので提示するとともに、この教具を使用し内容を改善した研修会等の事例について報告します。

## ○保育園建築を通じて、人と森のつながりを学習する取組

上小地方事務所 神原 博明

地域の山の木が園舎になることを保育園児に実感してもらい「森林を身近なものに感じ、新しい園舎を大切に作る心を育てたい」と伐採現場見学会を企画しました。その取り組みについて発表します。

## ○「諏訪地域ニホンジカ関連情報図～シカマップ～」による情報の共有と捕獲対策

諏訪地方事務所 竹松 清志

ニホンジカはテリトリー（縄張り）を持たずに広範囲を移動する獣種であることから、今まで一部の人しか知らなかったシカの生息地や移動ルート等の情報を一枚にまとめる事で情報を共有し、効果的かつ効率的な捕獲対策を行う資料として作成した。

## ○都立高校との『森林(もり)の里親』推進事例 ～上伊那地域における高校生の「森林保全奉仕合宿」の取り組み～

上伊那地方事務所 高田 淳子

まだ県内で実施の少ない、都立高校との『森林の里親』協定の先進事例を紹介。年間640名の森林保全合宿の受け入れに必要な条件や、その利点を検証。森林体験に乏しい東京の高校生を、信州の森へ呼び込むことを提案する。

## ○森林作業道開設研修と木製構造物工程調査

下伊那地方事務所 澤口 太介

急峻で脆弱な地形・地質の多い下伊那地域における、森林作業道開設技術の向上に向けた研修の取組と切土法面の保護に有効な丸太積みの普及を図るために行った工程調査の結果について紹介します。

## ○木曾地域の森林・林業の再生～民国が連携した森林整備の推進～

木曾地方事務所 保科 健

木曾地域では、民有林と国有林の准フォレスターが協力して地域の森林・林業の再生に取り組んでいます。

民国が一体となった木材供給体制の構築と、計画的な施業による森林の適正管理を目指した取組みを進めています。

### ○里山の技と伝統を引継ぐ炭焼き名人

松本地方事務所 小田切 貴子

松本地域で 50 年以上にわたり白炭を生産されている相川晴光氏の、黙々と白炭を生産し続ける熱意と、炭焼きをとおして地域林業の振興に貢献している姿をご紹介します。

### ○林間陸わさび栽培の取り組み

北安曇地方事務所 青柳 智司

林地を利用して、陸わさびの栽培を始めるにあたって必要となる条件の調査を行い、相対照度や施肥の必要性について明らかとした。

### ○松くい虫被害材を活用した取組

長野地方事務所 武田 芳夫

搬出可能な被害材を使って木質ペレットを試作。成分分析の結果、カラマツの木質ペレットと遜色ない品質を確認した。

### ○豪雪地域における簡易仮設住宅の検討

北信地方事務所 山崎 隆

H23/3/12 発生の長野県北部地震による住宅被害と復興に向けた地域材利用推進、及びこれらを契機に地域材利用の豪雪地域型の簡易仮設住宅建設に向けた設計・検討の取組み

### ○森林作業路等開設事例と微地形図による検証

林総セ. 指導部 高橋 太郎

林業総合センターで開発した微地形図を用いることで、より詳細な地形・地質の把握が出来るようになりました。この微地形図を利用した路網計画方法を紹介します。

### ○未利用材生産システムの検証

林総セ. 指導部 間島 達哉

広葉樹やアカマツ被害材等これまで未利用であった木材などについて、信州 F-POWER プロジェクトの推進に向けて、効率的に生産する方法を関係機関の協力を得ながら検証します。

### ○殺菌剤少量注入処理によるナラ枯れ予防方法の開発

林総セ. 育林部 岡田 充弘

新たなナラ枯れ予防対策として、現行処理の 1 / 4 0 0 の注入量で同等の枯損予防効果のある注入ボトル不要の新しい樹幹注入処理を開発しました。

### ○チーズホエイを使用したナメコ栽培技術の開発

林総セ. 特産部 古川 仁

チーズ製造過程で大量に生じる残渣（チーズホエイ）を菌床に添加したところ、ナメコの収量増加と発生期間短縮がみられたことを報告します。

### ○間伐材利用促進のための接着重ね梁の開発

林総セ. 木材部 今井 信

間伐材利用促進のために試験研究で取り組んでいる「接着重ね梁」について、その研究内容、使用事例、今後の取り組みについて紹介します。